

2004年事業報告書

特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター



<目次>

(特活) アジア日本相互交流センターICANの活動	p 2-3
、ミンダナオにおける支援活動	p 4-5
1 - 1、里親事業(通学支援事業)	
1 - 2、給食事業	
、パヤタスごみ処分場周辺での支援活動	p 6-8
2 - 1、医療支援事業	
2 - 2、職業訓練支援事業	
2 - 3、フェアトレード支援事業(マニラ&日本)	
、山村サンイシロでの支援活動	p 9
3 - 1、山村教育支援事業	
、相互理解を促進する活動	p 10-12
4 - 1、国際理解教育事業	
4 - 2、スタディツアー事業	
、事務局の運営(日本・マニラ)	p 13

(特活) アジア日本相互交流センターICANの活動

ICANは、社会的に弱い立場の人々、特に経済的に貧しい子ども達や家族に対して、生活向上・教育・福祉・医療に関する支援活動を行う団体として、フィリピンで人々の自立支援を進めると同時に、以下の国際協力活動を行った。

- ・ミンダナオ島ジェネラルサントス市における里親・給食事業
- ・マニラ首都圏パヤタス地区における医療・職業訓練支援事業
- ・リサール州山村サンイシロにおける山村教育支援事業

また、アジアの人たちとの相互理解を促進するため、日本およびフィリピンで以下の活動を行った。

- ・相互理解を促進する活動として国際理解教育事業、スタディツアー事業
-
-

ミンダナオ島 ジェネラルサントス市

ミンダナオ島の南部に位置するジェネラルサントス市は、人口41万人、世帯数8万8千ほどの地方都市である。地域内の貧富の差が激しく、イスラム系武装勢力の影響を受ける地区にあり、情勢は不安定である。また、世帯の約半数が貧困層だといわれている。

この地区では、子どもが十分に教育を受けないまま成人し、その世代は更に貧困になるという悪循環が見られる。こうした悪循環を少しでもたちきるために、子どもたちの通学を助ける里親支援と、子どもたちの就学率の向上を目指す学校での給食支援を実施した。

2004年は、現地に日本人ボランティアや専門調査員、調整員(フィリピン人)を派遣し、現地とのコミュニケーションや活動の充実を図るとともに、活動の問題点を調査した。



ジェネラルサントス市の市街(上)と郊外の漁村(下)



リサール州山村サンイシロ

リサール州、アンティポロ市、バランガイサンホセ、サンイシロでは、人口の半数を先住民族(レモンタドス族、ドゥマガット族)が占めている。村では電気や水道等のインフラが整備されていない。住民は主に焼畑や水田などの農業で生計をたてている。その収穫は一家を養うのに十分ではない。また、村では医療施設や教育施設が不十分である。村には住民グループがあり、地域の問題を自分たちで改善していこうと取り組んでいる。

マニラ首都圏パヤタス地区

マニラ首都圏ケソン市郊外にあるパヤタス地区には、ケソン市のごみが捨てられる巨大なごみ集積場がある。フィリピンの大気汚染防止法により焼却できないごみは、分別されないまま集積場に野積みされ、巨大なごみの山ができています。その山からは、有毒なガスが発生し、周辺地域を劣悪な環境にしています。ごみの山の周辺には約1万人の人々が生活し、リサイクルできる資源ごみを回収し、近くの廃品回収を行う店へ販売することで生計をたてている。

このパヤタス地区で、地域住民への保健医療サービスを提供する医療支援事業と、ゴミ捨て場における資源ごみ回収以外に収入源になり得る技術の普及を目的とした職業訓練支援事業を実施した。また、職業訓練で得た技術を収入につなげるフェアトレード支援事業も行った。

2004年には、ICANと協力関係にある地域の女性たちのグループSPNP（パヤタスの生計向上のためにがんばる母親達）が、医療支援、職業訓練、フェアトレードなどの活動全般に、積極的に役割を担うようになった。



活動計画を練る SPNP のメンバー



青少年活動「サバイタヨ」に参加する子ども達

相互交流を促進する活動

日本では自分たちの身近な社会とフィリピンの人々の暮らしを考えるための国際理解教育・スタディツアーを行っている。

国際理解教育では、参加者とともに、現地での活動や、現地で暮らす住民の方の生活を通して、貧困の問題を考えたり、国際協力のあり方を考えた。この活動は、学生や一般の方に現地での活動を理解していただくきっかけにもなった。パヤタス現地においては、子どもたちに健全な社会性を身につけさせる青少年活動「サバイタヨ」を実施した。

スタディツアーでは実際にフィリピンを訪れ、国際協力活動の現場を訪問した。従来の地域住民との交流を中心としたスタディツアーだけではなく、日本で国際理解教育を実施していきたい人を対象にした「フィリピン海外研修プログラム」も実施した。

事務局の運営

各事業を実施するため、プロジェクト全般の運営に関する活動を行った。2004年は、会員やボランティアの方が、団体運営に参加できるように、事業別ミーティングや勉強会を実施した。これらを通して、現地のプロジェクトの実施内容や重要性について共有を図った。

また、翻訳ボランティア、現地ボランティア、事務局ボランティアをはじめ多くのボランティアさんの協力を得て、活動を実施した。

、ミンダナオにおける支援活動

1-1、里親(通学)支援事業

(1) 事業内容

ジェネラルサントス市に暮らす、経済的に貧しい家庭の子ども達の就学を、現地の福祉団体Love & Life (L & L)を通して支援した。L & Lのスタッフは家庭訪問や里子の母親たちとのミーティングを通して、衛生・栄養や子どものしつけ、生活指導を実施した。ミーティングを通して彼らの抱える問題や要望について話し合うことができた。

また2004年より高校を卒業した子ども達への大学進学・職業訓練支援を試行した。

(2) 実績

就学支援(160名)	: 通学支援(学用品・制服・交通費の支給)、 医療支援(治療費、薬代の支給)
家族とのミーティング(計4回)	: 里子とその家族への生活指導、歌やダンスの発表会、食事会
居住区でのミーティング(計5回ほど実施)	: 里子の家族とのミーティング
大学生のための奨学金支援(3名)	: 通学支援(学費、交通費の支給等)

(3) 事業支出内訳

L & Lへの送金 1,850,696円(901,228ペソ)

既報告分(2004.4～9まで)内訳 (残金297,210ペソは2005年3月までに使用する見込み)

学費・制服代 728,259円(354638ペソ)	医療費 121,376円(59106ペソ)	大学生奨学金 37,761円(18,389ペソ)
L & L運営費 127,385円(62032ペソ)	L & L人件費 225,583円(109852ペソ)	

現地ボランティア・調整員活動費 442,279円

現地ボランティア・調整員謝礼	125,811円
その他の費用(通信費、海外保険代等)	107,676円
渡航費	208,792円

小計 2,292,975円



家庭訪問をする現地スタッフ



卒業式を迎えた子ども

(4) 次年度の課題

- ・L & Lのスタッフに対してソーシャルワークのトレーニングを行い、スキルアップを図る。
家庭訪問を積極的に行い、家族からの相談に対応できるようにする。
- ・2005年度「大学進学・職業訓練支援プログラム」として事業を開始する。このプログラムの対象となる奨学生は、地域児童に対して補習の指導などの活動にも携わり、地域の活性化のために寄与する。

1 - 2、給食支援事業

(1)実施内容

ジェネラルサントス市の、イスラム教徒や先住民族の子どもが多く通う学校で、子ども達の栄養や健康状態を改善するために、栄養価の高い食事を提供した。7月に、フィリピン教育省の栄養換算表によって子どもの栄養状態を評価した。ICANは食事の材料費を負担し、給食の調理や提供は各学校の校長・教師・保護者が協力して行った。

(2)実績 以下の3校で週1回の割合で実施。 *栄養状態は、フィリピン教育省の栄養評価基準による。
(標準以下 Below Normal, 標準 Normal、標準以上 Above Normal)

- 1) P.kindat小学校
対象児童数:50名 計29回
栄養状態:
標準以下 27人、標準 14人、標準以上 9人
- 2) Bawing小学校
対象児童数:100名 計35回
栄養状態:
標準以下 65人、標準 27人、標準以上 5人
- 3) Sarif Mucsin小学校
対象児童数:120名 計11回
栄養状態:
標準以下 65人、標準 24人、標準以上 11人



給食の時間



給食の準備をする母親たち

(3)事業費支出内訳

学校への送金(3校分)	185,247円
現地ボランティア謝金	24,437円
その他事務費	2,395円
小計	212,079円

(4)次年度の課題

・給食事業の実施状況やモニタリングの充実を目指すと共に、事業の評価基準を改めて作成する予定。

住民参加のコミュニティミーティング

給食を実施している Bawing 小学校の近くのコミュニティでのミーティング。5月から滞在している佐藤さんと9月に訪問したNGO専門調査員の山村さん、調査員のテスさんがL&Lのスタッフと共に実施しました。ミーティングでは住民自らが自分たちの現状を把握し、課題の解決に向けた計画づくりをおこないました。



、パヤタスごみ処分場周辺での支援活動

2 - 1、医療支援事業

(1) 事業内容

ケソン市パヤタス、ルパン・パガコ第二地区(4000名が居住)に住む住民の健康を守るために、ICANのコミュニケアセンター周辺で医療支援を行った。センターでの無料診療を始め、予防接種、重病者の病院での治療、居住区への巡回、栄養不良児のための栄養改善プログラムなどを実施した。特に2004年は、コミュニティヘルスポランテア(CHV)の育成に力を注いだ。2004年12月現在、診療所の管理や栄養改善プログラムはCHVらが中心になって進めている。また、地域の行政、NGOや住民組織との間でミーティングを実施し、各団体との連携を進めた。

* 本年度はJICAの草の根技術支援の資金を活用した。

用した。

(2) 実績

1、医療活動・・・医師・看護師・CHVが協力して実施。

1) 診療活動 (毎週火曜日と土曜日)

合計患者数 3989名

年合計96回の診療が行われ、患者のほぼ7割はこどもだった。こどもでは急性呼吸器感染症、肺炎、腸内寄生虫、扁桃腺炎、鼻炎などが、大人では急性呼吸器感染症や高血圧の患者が多かった。

2) 予防接種 (毎週土曜日)

こどもに三種混合、経口ポリオ、はしかの予防接種とビタミンA供給、女性とけが人に破傷風の予防接種を行った。



ICANケアセンター

ボケ
ア
ラ
ン
セ
ン
テ
ィ
ア
を
す
る
C
H
V



3) 外部診療補助 (随時)

ケソン市の病院など外部の医療機関での治療を促進するために交通費や検査費などを支援。

4) 家庭訪問 (毎週木曜日)

看護師がコミュニティーを巡回し、問題のある家庭や、クリニックで診療を受けた患者や、栄養不良児のいる家庭を訪問した。

5) 栄養不良児の栄養改善プログラム

(毎週月曜～金曜日)・・・CHV、看護師、

30人から40人の生後6ヶ月以上3歳未満の栄養不良児と3歳以上の重度の栄養不良児を対象に給食を行った。給食に参加していても、**家庭で摂取できる栄養が足りないこと、病気がちであること**などからこどもたちの栄養状態の改善は非常に困難であった。家庭でも、安価で栄養価の高い食べ物を作れるようになるために料理コンテストを開いたり、母親学級を開催したりして、母親の参加を促した。給食の準備や後片付けは母親たちが行っており、子育てや家事に忙しい母親たちも非常に協力的であった。

2、コミュニティーヘルスポランテア(CHV:Community Health Volunteer)の研修

1) CHV研修(1月～6月)・・・医師による研修が行われた。研修修了者はパヤタスに暮らす計30名の女性。

2) CHVとしての活躍・・・研修終了後、5人の女性が診療所や栄養改善プログラムなどでCHVとして問診、カルテの作成・整理や健康教室の講師として活躍している。後半はボランティアとして働く6人の知識や技術を高めるためにフォローアップ研修を行った。

3、医療 NGO や政府機関とのネットワーク作り

- 1) **行政との連携**・・・バランガイヘルスセンター(行政)から様々な協力を得られるようになった。バランガイヘルスセンター所属の医師、看護師、助産師、バランガイヘルスワーカーがコミュニティーでの活動に協力してくれるほか、薬や予防接種の提供を受けた。7月15日にケソン市保健局で活動報告を行い、プログラムについて助言を受けた。
- 2) **連携ミーティング**・・・パヤタスで活動しているNGO、住民組織、行政機関等と合同で月一度ミーティングを行った。各団体実施する事業を相互に把握したり、地域が抱える課題を共有した。

(3) 次年度の課題

地域住民の様々なニーズに答える質の高いプログラムが求められている。また、限りある資金で有効な支援を行うために、比較的余裕のある家庭には、相応の負担をしてもらうシステムを構築する必要がある。

2 - 2、職業訓練支援事業

(1) 事業内容

ごみ拾いをして生計を立てている女性や、無職の女性が副収入を得られるような技術を得るために、職業訓練を実施した。2004 年は、ぬいぐるみなどのクラフト作りだけでなく、住民からのニーズに応じて食品加工、おやつ作りなどの指導も行った。職業訓練では、SPNPのメンバーが講師を務め、20回実施した。また、他NGOが活動する地域においても講座を開催した。

(2) 実績

クラフト作り (3回実施) 参加者 計 13 名
 惣菜・おやつづくり (19回実施) 参加者 計 227 名

(3) 次年度の課題

技術は得られても、起業のノウハウが足りない、資本金がないなどの理由から、訓練が起業につながらなかったの
 で、起業につながる訓練プログラムになるよう、より住民の
 ニーズを把握し、ニーズに答えられるようにする。



食品加工の指導

4) 事業支出内訳 < 医療支援事業、職業訓練支援事業 >

< 医療支援事業 >

(JICA草の根分)	
現地日本人スタッフ人件費	1,800,000円
日本人調整員	1,200,000円
無料診療(医師謝礼、薬代等)	130,122円
栄養改善	120,842円
ヘルスワーカー研修/活動費	126,132円
外部診療補助	44,441円
ケアセンター整備費/備品/賃借料	118,453円
人件費(医師看護師)	466,599円
その他	247,714円
小計	4,254,303円

(JICA草の根分以外)
 その他雑費 4,684円

< 職業訓練支援事業 >

(JICA草の根分)	
スタッフ派遣費用	63,439 円
マニラ事務所借り上げ	223,304 円
職業訓練費	13,928 円
住民グループ研修費	25,211 円
作業所借り上げ	29,190 円
人件費	281,745 円
(調整員、ソーシャルワーカー)	
資機材(音響機器・プロジェクタ)費	305,911 円
小計	742,728 円

(JICA草の根分以外)
 その他雑費 2,632 円

2 - 3、フェアトレード支援事業(マニラ & 日本)

(1) 事業内容

<マニラ>

ケソン市パヤタス、ルパン・パガコ第二地区で、ゴミ山に近い地域に住む女性を対象に経済的、社会的自立を目的とした作業所を運営している。2004年度は、クラフトづくりに参加している女性が14人から13人になった。

今年は作業所メンバーたちで住民グループ(Sikap Pangkabuhayan ng mga Nanay sa Payatas(パヤタスのがんばるお母さん達): SPNP)を立ち上げた。SPNPメンバーはクラフト作りだけではなく、材料の調達やマーケティングなども自分たちで実施していけるよう、組織運営能力向上のための様々な訓練に参加した。2005年からはSPNPが独立した組織として、製品製作や販売などを行うことになった。また、現地スタッフと共にマニラ市内にてクラフト類の販売を行った。

<日本>

この作業所の製作品や、他団体の製作品をマニラや日本で販売し、パヤタスの現状や女性たちの活躍について、販売を通して伝えた。日本では、大学や高校などの文化祭で、自分たちでできる国際協力活動として、フェアトレード商品の販売に多く協力していただいた。商品の質が向上してきたことから、いくつかの委託店では定期的な受注を受けられるようになった。



SPNP(住民グループ)のメンバー
作業所にて

(2) 実績

委託店 風"s、ドリーム、オゾン、ぎたんじやり、いんやん堂、茶運亭、YWCA、ECC、抱

日本販売協力団体・イベント 鈴鹿市神の子上映会、連合メーデー、名大祭バザー、地球市民フェスタ、国際貢献フェスタ、国際協力フェスティバル、椛山大学祭、豊明市ワールドフェスタ、ひらき座公演、AHIオープンハウス、ワールドコラボフェスタ

協力学校 亀山高校、千年小学校、名古屋西高校、柏陽高校、長生高校、三陽高校、向陽高校、岡崎北高校、高蔵高校、東邦高校、金城大学祭、白子高校、日福大祭、益子小学校、神戸小学校、光ヶ丘高校、静岡大学祭、マニラ日本人学校、フィリピン大学、拓殖大学、東京国際大学、

マニラ販売協力団体・イベント スターシティ、AKO、マニラ新聞、Manila Heritage バザー、SALT、EVANS、ACC E、関西学院ハピタット、

収入	
フェアトレ売上	1,736,368 円
支出	
作業所労賃	527,582 円
作業所材料費	255,047 円
作業所賃借料	3,983 円
その他の支出	133,325 円
合計	919,937 円

(3) 次年度の課題

2004年末に、住民グループ SPNP の独立に向けて、これまでのフェアトレードの収益金の一部を賞与として支給した。SPNPはその一部を貯蓄して、作業所法人の設立資金に当てる予定。2005年度は SPNP が独立して製品の製作販売を行っていかれるように、ICANはパートナーとして側面から支援する。

また、日本からは定期的に SPNP に商品の注文をする。そのために、販路の確保や販売数の確保をしていくことが重要である。広報にも力を入れていく予定。

、山村サンイシロでの支援活動

3 - 1、山村教育支援事業

(1)事業内容

リサール州アンティポロ市にあるサンイシロという山村で先住民(レモンタドス族、ドゥマガット族)の組織MASAKAと共に支援活動を行っている。先住民が自尊心を持ち、環境を守りながら生活できるように、高校生への奨学金支給とプレスクール(幼稚園)への支援、家庭内植樹などを行った。

2004年には、現地法人の理事の協力により、有機農法の普及活動を行っているNGO(MASIPAG)をMASAKAに紹介し、MASAKAのメンバーが有機農法を学ぶ研修に参加した。村では試験的に有機農業が始められている。

(2)実績

)先住民の高校生のための奨学金

9名の高校生に対して、授業料、学用品、制服等を支給した。

期間中に2名が結婚のため中退。現在7名が通っている。

)家庭内植樹

およそ100本の果樹などの苗木を奨学生に支給し、家の庭や畑に植えた。

)プレスクール

教師への謝金は、アンティポロ市が負担することになり、資金面での支援は必要なくなった。現在は住民とともに、プレスクール運営についての話し合いを進めている。

(3)事業支出内訳

ハイスクール奨学生支援	27,180 円
プレスクールへの支援	19,577 円
家庭植樹	4,897 円
交通費	3,374 円
雑費	4,987 円
支出合計	60,015 円



家庭植樹で植えられた木



試験的に始められた有機農業

(4)次年度の課題

・村の住民から出されるニーズを調査し、あらたに事業計画を立てる必要がある。

、相互理解を促進する活動

4 - 1、国際理解教育事業(日本・マニラ)

(1)事業内容

日本で暮らす学生や一般の方たちに、国際協力について感心を持ってもらい、日本でできる活動を考える機会を提供する以下の国際理解教育事業を実施した。

- 1 自主企画の開催・・・国際理解教育ミーティング、連続ワークショップ会、国際理解教育講座
- 2 学校訪問、事務所訪問、講師派遣、物資寄付活動
- 3 フィリピンパヤタス地区での青少年活動「サバイタヨ」

(2)実績

1)自主企画の開催

-)ミーティング・・・国際理解教育事業の進め方を話し合うミーティングを月一回開催した。10名前後のボランティアの方が積極的に参加した。
-)体験ワークショップ会・・・ミーティングに参加したメンバーにより、国際理解教育に興味を持つ人たちに、ワークショップを体験してもらう連続(3回)を実施した。
学生中心に毎月15名前後が参加した。
第1回 「国際理解教育って何？」5/19
第2回 「貧困って何？」6/30
第3回 「グローバルゼーションって何？」8/6
-)国際理解教育講座・・・パヤタスで生活する家族の暮らしを通して「貧困」問題を考える参加型学習会の実施。
-)ワールドコラボフェスタ・・・ごみ山に生活する人々の映像、オリジナル音楽、海外研修参加者のトークでつづるステージを通して、パヤタスで暮らす人々の現状とそこで感じたことを観る人に訴えた。

2)学校訪問、事務所訪問、講師派遣、物資寄付活動

-)学校訪問授業 7校 計14回
(聖霊高校、犬山中学校、一色中学校、新効中学校、明和高校、愛知教育大附属高校、鈴鹿国際大学)
-)事務所訪問受入 6校 計6回
(豊川高校、明正中学校、犬山中学校、代田中学校、犬山南中学校、沢上中学校)
-)セミナー等への講師派遣
 - ・現場に行こうスタディツアー・・・国際理解教育を実践している団体を訪問するツアーの受入。
 - ・国際理解教育セミナー・・・二日間に渡って、様々な団体が、国際理解教育・開発教育のワークショップを行った。ICANも3講座に関わる。
 - ・「神の子たち」上映会 in 鈴鹿・・・鈴鹿市国際交流協会が主催した映画の上映会への参加。
 - ・フィリピンフェスティバル シンポジウム 「学生が見たフィリピン～国際協力の現場～」
・・・フィリピン友好協会主催の在日フィリピン人と日本人の交流を目的としたお祭りへの参加。スタディツアー参加メンバーによるシンポジウム発表。
 - ・地球市民フェスタ 車座トーク・・・NGOに関心がある人たちが集まり、団体紹介や活動紹介などを行った。
 - ・国際貢献フェスタ2004in三重・・・三重県国際交流協会主催のイベントでワークショップを実施する。フィリピンが抱える貧困問題をシミュレーションの形で体験する参加型学習を行った。

- ・JICA青年招聘プログラム・・・JICA主催の企画で、フィリピンの地方行政に携わる若者が来日し、日本を知るプログラムの一環で、ICANはフィリピンでの活動を紹介した。
- ・サマーセミナー 講座・・・愛知県の私立の学校が中心となり、市民講座として様々なジャンルの仕事に携わる人たちが先生となり、授業を実施するというイベント。ここではフィリピンの暮らしと国際協力をテーマに写真を使ったワークショップを行った。

) インタ - ン、NPO研修受け入れ

「NGOスタッフになりたい人のためのプログラム」(企画:名古屋NGOセンター) フィールドワーク研修受入(2~3月)

) 教材の貸出 合計5回貸出・・・主に写真の貸出

) フィリピンの子どもたちへのカード送付 合計2回発送・・・7月、12月に発送

) フィリピンの子どもたちへの文房具の送付 合計5回発送・・・95kg分発送

3) パヤタス地区での青少年活動「サバイタヨ」(毎週土曜日)

パヤタス地区の子ども達(約30名)が歌や図画工作、演劇などの活動を通して、仲間意識を育て、社会性を身につけるために以下の活動を実施した。

) 歌、踊り、演劇、図画工作、ゲームなどのグループ活動

「こどもの権利」についての学習会
(日本人ボランティアのコーディネートによる)

) マニラ日本人学校の児童生徒と手紙の交換

) アンティポロ市山村サンイシロへの遠足・ホームステイ

) ケソン市にある車椅子に乗った弦楽団のこどもたちの寮
(Bahay Mapagmahal: 愛の家)の訪問と交流

) ブラカン州の児童養護施設でのキャンプに参加



Bahay Mapagmahal (愛の家)を訪れる、サバイタヨのこどもたち。

(3) 事業支出

学校訪問	23,126円	文具送付	85,100円
その他研修	63,449円	カード送付	30,250円
マニラ訪問受入	113,864円	サバイタヨ	295,86円
報告書・教材作成等	12,546円		

支出合計 357,921円

(4) 次年度の課題

2005年は国際理解教育の年間プログラムを行い、連続講座や自主企画などに多くの方が参加することを目指す。参加者から国際理解教育のボランティアを募り、ボランティアグループによって事業の実施・運営をしていくことを目標とする。具体的には、学校訪問や訪問者対応、自主企画の実施運営などを有志で行っていくような仕組みづくりをしていく予定。

4 - 2、スタディツアー事業

(1) 事業内容

フィリピンで取り組まれている草の根の国際協力活動を視察すると同時に、現地で暮らす住民と交流し、貧困の現状を理解し、学ぶスタディツアーを実施した。参加者はサンイシロやパヤタス、ミンダナオなどの活動地を訪問し、ホームステイ、住民や子ども達との交流会を通じて、現地住民の置かれた立場に対する理解を深めた。

2004年はテーマ性を重視し、教育に携わる教員・学生・市民を対象にして、国際理解教育のためのフィリピン海外研修プログラムも実施した。これは、単に訪問するのではなく、パヤタスでの経験を日本の教育現場で伝えることを目的とした海外研修であった。研修では、住民との交流だけでなく、自分たちがパヤタスを訪問して感じたり考えたことを、地域住民に発表した。



フィリピン海外研修の参加者

ツアー参加者は、参加者が日本に帰国してからも自分たちの経験を人に伝える活動を通して、一般の方の理解を進めた。長い間行くことができなかったミンダナオ島ジェネラルサントス市への訪問ツアーも現地に滞在した佐藤さんの協力を得て実施した。

(2) 実施時期と参加者

第1回：「サンイシロ・パヤタス訪問スタディツアー」(2月)	参加者：5名
第2回：「フィリピン海外研修プログラム」(8月)	参加者：11名
第3回：「ミンダナオ訪問ツアー」(8月)	参加者：4名
第4回：「パヤタス訪問スタディツアー」(8月)	参加者：3名

(3) 収支状況

収入

参加者収入 738,260円

支出

交通費 193,238円	訪問地への謝礼金 10,770円
食費 148,663円	調整員費 53,050円
宿泊費 40,596円	雑費 30,916円

支出合計 477,233円



訪問を通して学んだ事を話し合う参加者

(4) 次年度の課題

単に現地を訪問して終わるのではなく、行動につなげていくためのプログラムも実施していく予定。国際理解教育事業、フェアトレード事業と連携させた企画も実施していく。

、事務局の運営(日本・マニラ)

5 - 1、日本事務局

実施内容

社会的・経済的に厳しい環境にあるフィリピンの人々の自立支援と課題の共有のため、プロジェクト全般に関する活動を行った。2004 年は会員やボランティアが各事業の活動に参加していくために、事業別ミーティング、勉強会を開催した。理事も各事業を担当し、プロジェクトの実施内容について、多くの人と共有できるように、随時ミーティングを行った。

事務局の実施内容は下記の通り。

- ・各プロジェクトに関わる事務作業、経理作業、報告・会報の作成
- ・会員、協力者、一般からの問合せや訪問への対応
- ・国際理解教育活動
- ・フェアトレード活動の促進
- ・スタディツアーの実施
- ・インターン、研修生等の受け入れ

(2) **実施場所** ICAN 日本事務所(名古屋市)、他

(3) **実施形態** 日本人専従スタッフ2名、理事5名、インターン 5 名(川岡さん、斉藤さん、石田さん、大西さん、丹羽さん)、ボランティア50名

5 - 2、マニラ事務局

(1) 実施内容

現地法人を運営し、パヤタス、サンイシロのプロジェクト全般に関することを行った。

具体的には以下の活動を行った。

- ・プログラムの計画、実施、評価、モニタリング。
- ・活動全般に関わる事務作業、経理作業、報告書の作成。
- ・スタディツアーや訪問者の受け入れ。
- ・インターン、ボランティア、短期研修生の受け入れ。
- ・フェアトレード製品の販売促進や在庫管理。
- ・他団体とのネットワーク作りやコーディネート。

(2) **実施場所** ICANマニラ事務所(ケソン市)、パヤタス、サンイシロ他

(3) **実施形態** 日本人専従スタッフ1名、フィリピン人スタッフ4名、インターン2名(佐藤さん、安井さん)、ボランティア3名(田代さん、黒坂さん、佐久間さん)、短期研修生1名。